

平成28年度 天白区在宅医療・介護連携市民講演会 アンケート調査結果

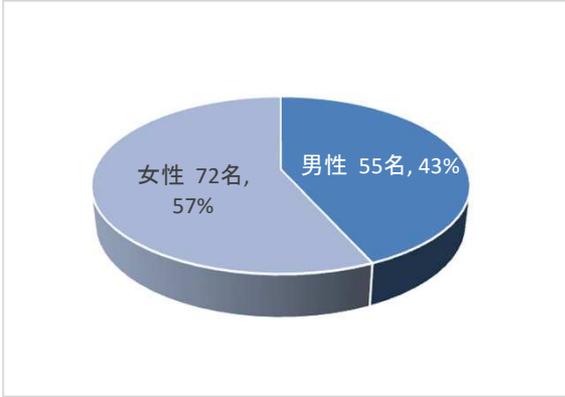
開催日：平成29年2月25日(土)

テーマ：住み慣れた地域で安心して老いていくために

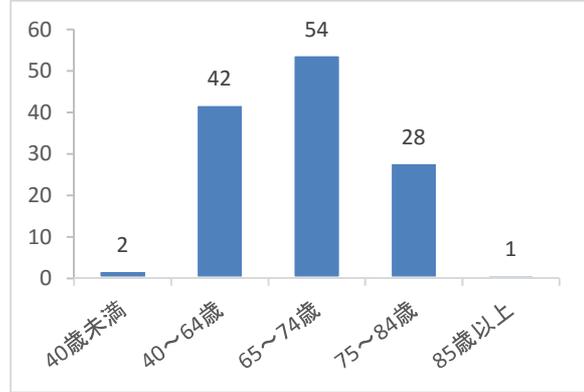
来場者数：175名(内アンケート回収127名)

1. 本日の講演会について

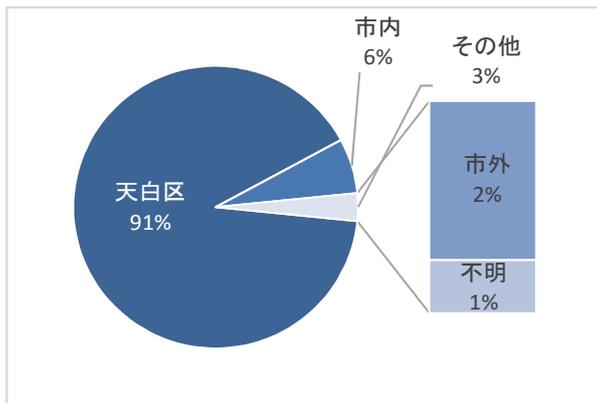
(1) 性別



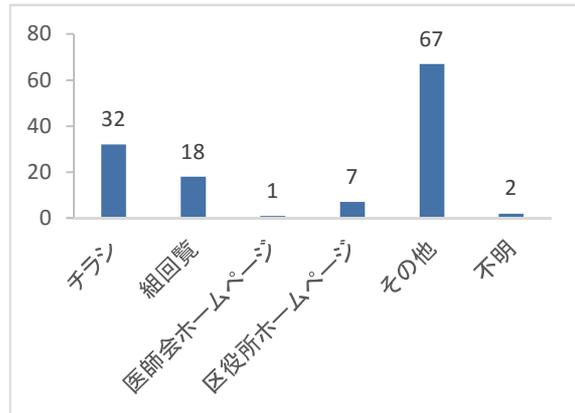
(2) 年齢



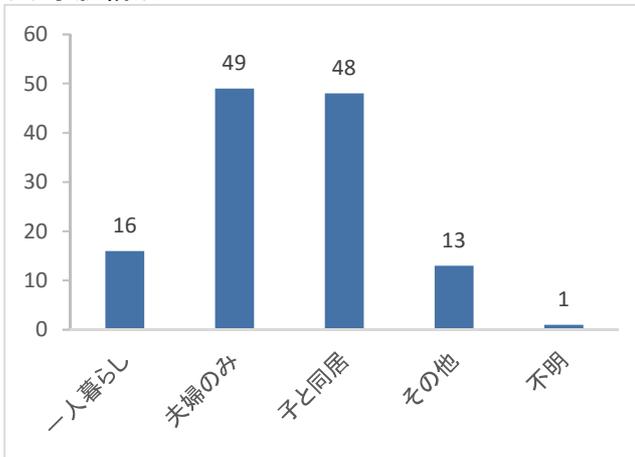
(3) お住まいの区



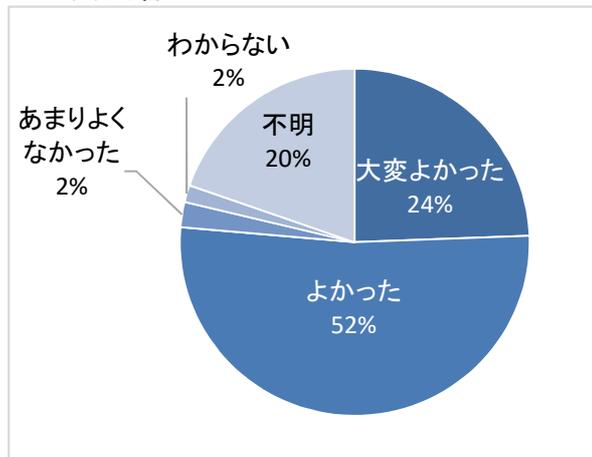
(4) ご来場のきっかけ



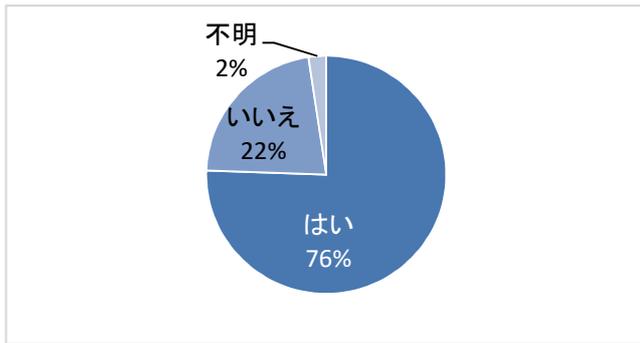
(5) 家族構成



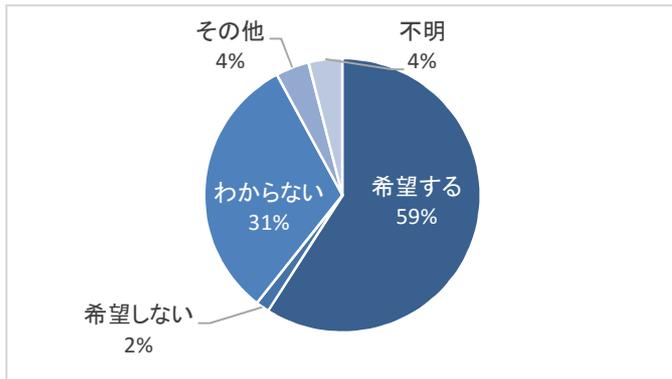
(6) 内容について



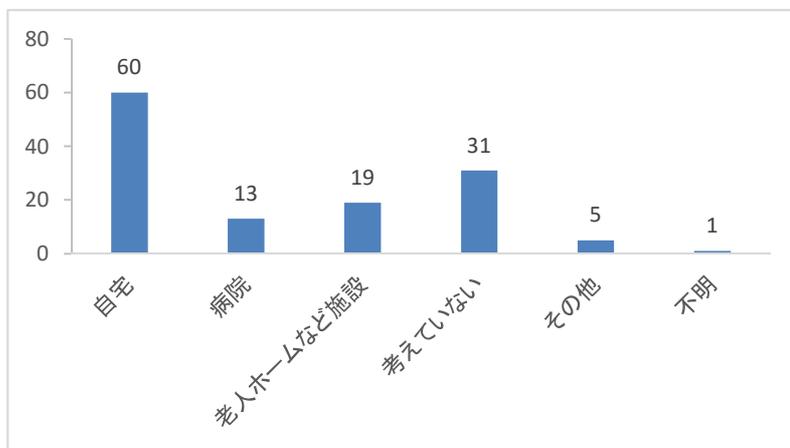
(7)「かかりつけ医」はいますか？



(8)通院困難になったとき、「かかりつけ医」の往診を希望されますか？



(9) 人生の最期の時をどこで過ごしたいですか？（複数回答）



(その理由) 抜粋

<自宅>

- ・住み慣れた自宅で最期を迎える事ができれば本望です。(他多数)
- ・理想は自宅が最高だと思いますが、老々介護では望めそうにありません。
- ・住み慣れた景色をみて死にたい。
- ・親・兄弟を病院で看取ってきてチューブにつながって亡くなるのは嫌だと思った。

<病院>

- ・家族に迷惑をかけたくない。(他多数)
- ・緩和ケアが必要なため。

<施設>

- ・家族に迷惑をかけたくない。(他多数)
- ・家族の負担を考えてしまうが、本心は自宅を希望しているかも？
- ・自宅では家族に負担がかかるが、施設入所では経済的に余裕がないと難しい。
- ・独り住まいのため、自宅療養は不安。
- ・日本の住宅状況において部屋のスペースが狭くベッドが置けないため。

<考えていない>

- ・まだ元気のためなかなか考えられない。今後ゆっくり考える。
- ・元気でありあまり考えたくない。
- ・人生最期のときの家族構成がわからない。家族がいれば自宅、1人だったら病院で過ごしたい。
- ・その時の状況に合わせて考えたい。(他多数)
- ・まだこの先の医療・介護制度が変化していくのが見えない。

<その他、不明も含む>

- ・希望通りに進まない事が多いので、わかりません。
- ・老衰の場合、気持ちが落ち着く所が一番だと考える。自分を理解してくれる人に囲まれたい。
- ・子どもの考え方が重要だと思っているので、自分で決める事はできない。
- ・状況が予測できないので決めることができない。その時々で相談しながら決めたい。

2.本日の講演会の感想、今後「在宅医療」に関するテーマへの希望。

【感想】

<講演内容への関心>

- ・在宅療養につき大変勉強になりました。(2)
- ・大変良い内容で有難うございました。(3)
- ・自分の最期を考える参考になりました。
- ・今まで自分の最期を深く考えてきませんでした。お話を聞いて在宅医療・介護連携支援センターについてよく分かりましたので、改めて考えます。
- ・野村先生のお話はとてもわかりやすく、イメージしやすかった。(1)
- ・野村先生のお話はとても良かった。瀬戸にこんなお医者様ほしいと思った。
- ・近所づきあいに本人の医療がつたわっているのがいいですね。
- ・名古屋市医師会の取り組みが分かってよかった。
- ・とてもいい内容でした。在宅の場合に根本的にどうするか？詳しく話を聞きたい。介護保険について(かなりややこしいと聞くので)詳しく知りたい。
- ・両親を看取った(共に最期は病院で)経験から言えば、本日受けた講演の地域包括システムをうまく利用させていただいた感じがする。ケママネさんとの相談がうまくいったのではないかと思う。今となっては こうしたシステムができていたことに感謝したい気持ちである。今後、自分自身どのような終末を迎えるかは分からないが、安心して終末を迎える社会でありたいと考える

<介護者家族の負担感>

- ・現在父が訪問診療を受けていますが、ありがたく思っています。しかし、家族のものが忍耐が必要です。

<在宅医療について>

- ・在宅看取りを行う在宅医がもっと多くなればと思います。未だ少数と聞いていますので。
- ・患者側からしたら天白区(近隣区含)で熱心に対応してくれるDrを知りたい、又 Drは「在宅医療」と言われる中でどう思っているのか知りたい
- ・障害者が高齢になってきて、だんだんと動けなくなってくる65歳以下(介護保険外)自分らしく自宅で過ごすために少しでもうまく過ごしていくためにはどうしたらいいでしょうか？
親80代子50代 俗に80、50問題といえます。

<経済的負担について>

- ・在宅医療は家族への負担が大きく考えざるを得ない面がある。一方、高齢者住宅への住み替えや老健施設への入所は高額な費用がかかるようで、大いに悩める所である。
- ・在宅医療体制が十分なのか不安がある。また、経済的不安がぬぐえない。
- ・国の政策では無理がある。介護保険の変更なども、さらには地域での役割も求められてきていますが昨今の経済状況の中で住民も他人どころでない様な実態もある。野村先生のお話は良く解りました。ありがとうございました。

<制度的介護力について>

- ・在宅医療の理念としては、理解できるが現実としてか、困難がともなうように思える。急な対応のためには訪問介護のスタッフの増員などの充実が必要と感じる。
- ・在宅医療・介護の人数の目標はどの位置に置いているか、する側の人数のキャパシティーはあるのか？

<講演会改善点について>

- ・前半は早口で聞きづらかった。
- ・内容が濃すぎて理解しづらい事が多かった、家で資料を見直したい
- ・内容が多すぎて 深く考えられなかった。

- ・休憩中の動画？言葉が早すぎる、項目を少なくして？
- ・少し駆け足気味の説明で、、、。今は元気ですが子供と相談、今後の事は今日の講演を参考にして考えていきたいと思いました。自分に適した方法を選ぶ事が大切。
- ・講演に慣れた先生となれていない先生で同じ内容でも全くちがうように聞こえました。なるべく落ち着いた声でゆっくり話して欲しい。最後の先生は具体的事例も多くよかった。
- ・全体に内容は良いのだと思われませんが、説明が早くて判らない。野村先生の話は良くわかった。

<その他>

- ・訪問診療を受けている方が呼吸が止まって主治医に電話したら救急車を呼ぶように言われ病院へ搬送され5時間あまり会えずにそのまま死亡で家に帰る事になったと言ってみえました。
看取りを家で行うのはむづかしい(医師が24時間対応できない場合は)と思いました。訪問看護師さんが死亡確認できるシステムはできないでしょうかね、医師のみではむづかしいのでは？

<その他>

- ・在宅医療について あまりPRされていないと思う。もっと公共機関を通じてPRする必要があり、地区町内会毎学区毎に時間をかけて実行して欲しい。活用を。
パソコン、スマホetcの活用を高齢者の場合しないことを前提にお願いしたい。
- ・医療と共に「傾聴ボランティア」を多く養成すべきと思います。

【希望するテーマ】

- * 安楽死について 費用について「在宅医療」にかかる費用への補助、免除、見守る家族への援助などについて
- * 包括ケアシステムの構築の時期だと思いましたが、課題も多いと思います。集約された課題の話もお聞きしたい。
- * 現実にどれだけのお金が掛かるか知りたい。 本日は大変有意義であった。